

学外交流成果報告書

慶應義塾大学政策・メディア研究科

小山敦士

1. 研究目的・内容

ランドスケープエコロジーに関する研究を進めている学生間のネットワークを形成し、研究交流を行うために学生を主体としたセミナーを開催した。昨年度には試験的に岩手大学との間で二大学のセミナーを実施したが、今年度はさらに東京大学と宇都宮大学を招き、4大学による学生セミナーとした。セミナーは宇都宮大学の協力を得て、同大学付属日光演習林において実施した。セミナーは大きく3つの内容構成とし、一つは、各大学学生による研究発表討論会で、各大学から数名の学生がそれぞれの研究テーマを発表し、議論を行った。このセミナーで最も重要なプログラムで、最も多くの時間を割いた。二つめは、それぞれの大学から参加頂く教員による講義であった。三つめは国立公園における合同フィールドワークを行った。

2. 交流成果

研究発表討論会では、バッタやチョウ、鳥などの群集生態学の研究、バイオマスなどの農村計画の研究など多岐にわたる研究成果を各校の学生が各々発表した。発表後は、教員学生問わず活発な意見が飛び交い、発表者には今後の研究の方向性、それ以外の学生には今後の研究のモチベーションアップにつながったと思われる。教員による講義では、統計分析手法やそれぞれの研究分野の最新情報を提供するコーディネーターになるなど、普段なかなか聞くことができないような貴重なお話をしていただくことができた。最後に、合同フィールドワークでは日光国立公園における貴重種を見つけることができるなど、演習林を保持していない当大学ではなかなか味わえない自然の醍醐味を堪能することができた。

また、3日間を通して、朝食、夕食の食事当番を各大学で分担し、食事作りの一連の作業を研究会の皆で行うことで、連帯感を改めて構築することができたと思う。